半世紀 そして未来へ
2014年11月11日
武蔵野東学園 創立50周年

武蔵野東教育センター会報
Newsletter of Musashino Higashi Center for Education and Research

# “Heart to Heart”

心から心へ　わかちあう　あたたかさ

第9巻 第2号 (No.27)
発行日 平成26年12月1日

目次:

| | |
|---|---|
| 何事も一歩ずつの前進を | 1 |
| コラム：自閉症児教育と研究（2） | 2 |
| 療育プログラムのようす | 2・3 |
| コラム：頼りにされる存在としての生活 | 4 |
| 教育センターからのご案内 | 4 |

## 何事も一歩ずつの前進を

武蔵野東教育センター所長　長内博雄

今年も早や師走となりました。子どもたちはこの一年間を、それぞれのプログラムを通してよく頑張ってくれました。その成長に目を瞠るお子さんもたくさんいます。教育センターで受講している子どもたちは、小・中学生はもちろん、幼児も多くは地域の保育園や幼稚園に通っていますが、これまでにも教育センターの療育を受けるようになって、あいさつができるようになったことや洋服をたためるようになったことを幼稚園の先生にほめられたとか、センターでの発表練習のおかげで学校でも自信をもって発表できるようになったなどと、センターの療育での学びが他の場で活かされている数々の報告をいただいています。

さて、この１０月末に個人懇談を行いましたが、その中から幾つか保護者の皆さんの感じていることを取り上げてみます。まず目立ったこととして、発達の早い幼児期ということもありますが、とくに幼児スクールの保護者から、行事や集団活動に参加できるようになったこと、自分からやってみようという意欲をはじめ認知や言語の力が高まってきたこと、人間関係が少しずつ築けるようになってきたことなどの報告が多くありました。同時に小学生以上の子どもたちのうれしい報告も数多く受けています。

反面、懇談ではいろいろな悩みも聞かれます。現在学校に登校できず、活動がセンターのみに限られているお子さんがいたり、教育センターでは笑顔で友達と交流したりするのだが、学校では泣いたり叫んだり机を倒すなどして主張することが多いとか、学校の授業に集中できず、思い通りに行かないと鉛筆やメガネを投げたり友達を叩いたりするとか、あるいは学級崩壊しているなどという、地域の学校の悩ましい現状やセンターとのギャップの報告が多くありました。

また年齢とともに出てくる課題もあります。クラスの同級生や保護者に、本人について何らかの説明をする必要性を感じるようになったという方、それから低学年ではさほど問題がなかったが３年生になって対人関係における何らかのトラブルを抱えるようになってきたという方は複数いました。さらには、本人が自分のことを「障害があるの？」と聞いてくるようになったという方もいます。まさに年月の流れとともに成長を感じてよろこび、また新たな課題が出てきては心配するという連続であると言えましょう。

教育センターでは様々な個々の事情も受け止めながら、本人への療育での対応や保護者の方への助言などを通して精一杯支援をしていきますので、保護者の皆さんは、何事も必ず先の開けてくることを信念にして、一歩ずつ前進することを心がけていただきたいと思います。

この年内をお子様共々お元気にお過ごしくださり、どうぞ爽やかな心で新年を迎えられますようお祈りいたします。

コラム　自閉症児の教育と研究（2）

## 分室で実施した研究の概要

東條吉邦（茨城大学教授、元・国立特殊教育総合研究所分室長）

武蔵野東小学校に隣接していた国立特殊教育総合研究所の分室は、文部省の直轄機関として、①交流教育をはじめとした自閉症児の教育に関する研究、②自閉症児の障害特性に関する研究、③教育相談に関する実践研究を主に行っておりました。これらの研究の成果は、文部省に報告するとともに、関係学会、学術誌、報告書などで公開しておりました。

まず、①の交流教育は、北原キヨ先生の開発された混合教育と関連の深い概念ですが、混合教育のほうが交流教育よりも先進的な取り組みといえます。この50年間、東学園で積み重ねられた混合教育に関する様々な成果を、東学園から教育実践研究として発信されることは、我が国のインクルーシブ教育の進展に大いに役立つものと思います。

次に、②の自閉症児の障害特性に関する研究のうち、私が取り組んだのは、昭和50年代には、脳波と行動を指標とした言語・認知障害仮説の検討、昭和60年代からは、優れた特異的能力の検討、社会性の発達と心の理論との関係、平成10年ころからは、アセスメントやスクリーニングの研究、視線や表情に関する認知科学的研究などがあり、それらの研究の成果は、学術誌・報告書・著書等で発表し、報告書の一部は武蔵野東教育センターにも寄贈しております。

なお、自閉症児の障害特性、とくに社会性の発達、視線や表情の認知に関する研究は、東京大学駒場キャンパスで夏休みの期間中に実施されている研究に引き継がれ、毎年150名ほどの武蔵野東学園の在校生と卒業生のご協力を得て研究が行われ、研究の成果は国際学術誌だけでなく、単行本でも公開されております。例えば、『自閉症スペクトラムとは何か―ひとの「関わり」の謎に挑む』（千住淳著、ちくま新書、2014年）、『社会脳とは何か』（千住淳著、新潮新書、2013年）などで最近の研究成果が紹介されております。

次回は、自閉症児の教育に関する赤ちゃん研究からの示唆など、社会性の発達に関連する研究を紹介させていただく予定です。

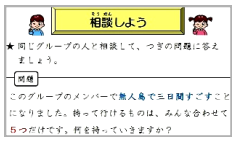
このコラムは4回シリーズでお届けします

## 療育プログラムのようす

**アート教室**　武蔵野東学園創立50周年の記念行事の一つとして行われた美術展に、アート教室の子どもたちの作品も展示されました。今回は毛羽（蚕が繭を作るときに足場として最初に吐く糸）と草花を使った壁飾りと、藍染めのレッスンバッグを展示し、たくさんの方々に見ていただく素敵な機会を得ることができました。これからも個性豊かな作品づくりをしていきたいと思います。（北川）

美術展での展示

**SST教室**　5～6年生のSST教室では友だちどうしで話し合ったり、相談したりすることを重視しています。自分の意見を言うときは、理由（なぜそう思ったのか）までしっかり言えるように練習しています。なかなか結論が出ないこともありますが、「○○君の意見もいいと思うから、僕もそれでいいよ。」などと譲歩できることも増えてきたように感じます。（大澤）



相談しよう

★同じグループの人と相談して、つぎの問題に答えましょう。

問題

このグループのメンバーで無人島で三日間すごすことになりました。持って行けるものは、みんな合わせて5つだけです。何を持っていきますか？

プリント教材「相談しよう」

**体育教室**　縄跳びの難しさは上肢下肢の協応運動にあり、苦手意識を持つ子どもが多い課題です。そこで今年は二つの工夫を試みました。一つ目はコードチューブを巻くことで、重さを出し、絡みにくくすること。二つ目は新聞紙をグリップに巻き、縄のあそび部分を少なくし、縄回しをスムーズにすることです。特に、縄が頭に引っ掛かり回せない子には新聞紙の工夫はお勧めです。（鈴木）

今年の工夫

**ダンス教室**　9月から花やタンバリン、ポンポンなどを使ったダンスを練習してきました。造花を持たせて、「どんな香り？」とたずねると「ハチミツのにおいがする！」と笑顔の子どもたち。気持ちも高まり、いつにも増して熱心に練習に取り組む様子が見られました。今は2月14日の発表会に披露するポンポンのダンスを練習中です。本番では、応援よろしくお願いします。（新堂）

ポンポンを持って！

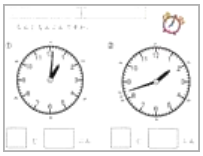
**言語プログラム**　50音表を使って上下・隣合わせ・斜めの2文字を繋げ、上（下）右（左）様々に読んで「赤」「土」などの言葉を作るゲームが人気です。2つの仮名を丸で囲んだらカードに文字を書きます。5分間の制限時間で、担当者と交代で行います。平仮名は1点、漢字は2点です。言葉を考える時は集中し、勝つために漢字を積極的に使い、勝った時には誇らしげな表情をしているのが印象的でした。（計野ち）

いろいろな言葉を作っています

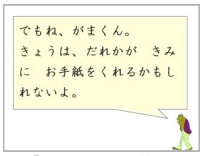
**幼児**　後期も学年ごとに目標を持って取り組んできました。親子教室はクレヨンの着色にポイントをおき、ボンドで周りを縁取って枠の中を塗る意識を高めました。年少は手の操作性を高めるはさみに挑戦しました。年中は折り紙で「アイロン（折り線をしっかり折る）」の練習を重ねました。年長は顔や体の部位を確認し人物画に挑戦しました。繰り返し練習する中で体得する「できた！」の気持ちを大切に、来年も様々な取り組みをしていきます。（本田）

どんなポーズができるかな

**１年生**　算数で、「とけい」の学習をしました。「えーと、短い針が2と3の間だから2時、そして、長い針が6だから‥‥あっわかった！2時30分だ！」と、時刻が読めるととてもうれしそうに答えていました。また、「先生、ほら、もう15分になったよ」「～時になったら、帰る時間だよね」など、子どもたちの口から時刻にちなんだ会話が多く聞かれるようになりました。これからも学んだことを、生活の中に生かしてほしいと思います。（宮下）


時計「なんじかな？」

**２年生**　国語では、物語「お手紙」を題材に、気持ちの読み取りを学習しています。「かたつむりくん、まだかなぁ」「お手紙をもらえたから、幸せなんだね」といった感想を、授業ごとにたくさん聞くことができました。また音読では、学習したことを活かし、物語に出てくるがまくんやかえるくんの気持ちになって、セリフを読む姿も見られました。（猪野）



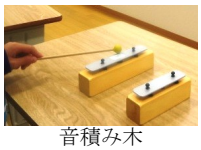
「お手紙」紙芝居

**３年生**　音楽では、『ゆかいな木きん』を鍵盤ハーモニカで演奏しています。演奏の前に階名譜を歌ってから練習が始まります。演奏のペースはそれぞれなので、まずは自分で吹けるようになること、その次は周りの友だちの音に合わせることが目標です。子どもたちはリズミカルなこの曲をすぐに覚え、素敵なメロディを奏でることができました。（諸橋）

「ゆかいな木琴」 練習中

できたよ、バランスボード

**４年生**　4時間半のスクールプログラムでは、毎週体育の先生が授業を展開しています。基本運動のほかにも「円盤」「ペダルローラー」「ボール運動」「バランスボード」などの器具を使った運動を行うことで、バランス感覚が身につき、できることが増えてきました。学習では、連続絵にあわせた文章作り、面積や小数の学習に励んでいます。　（藤本）

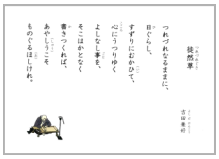

音積み木

**５年生**　音楽では『音積み木』を使って合奏の練習をしています。それぞれ1～2音くらいずつ分担し、全員で一つの曲を演奏します。リズムに合わせて演奏するためには、友だちの出す音によく耳を傾ける必要があります。このことは友だちの様子や周囲の状況に意識を向けるというソーシャルスキルの練習につながっていくと考えています。（大澤）

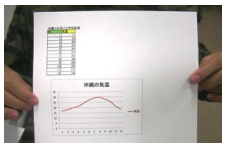
折り紙でコースター作り

**６年生**　図工では、折り紙を使った製作に取り組んでいます。中でも、同じパーツを複数組み合わせて1つの作品を作るものは、一つの工程を繰り返し練習できるので、「袋折り」などの少し難しい折り方もできるようになってきました。折り方を覚えて一人で折ることは、お手本を見ながら折るのとは一味違った楽しさがあるようで、みんな集中して取り組むことができています。（臼井）

**中学生**　国語では、『徒然草』の学習をしています。普段の生活では聞き慣れない言葉遣いに苦戦しながらも、皆興味深そうに学んでいます。扱っている内容は『序文』と『高名の木登り』です。『高名の木登り』では、「失敗は簡単そうなところに起きるもの。簡単だからと言って油断してはならない」という教訓を学び、子どもたちは納得の表情を見せていました。（吉田）


徒然草

**コンピュータ教室**　Excelを使って、棒グラフや折れ線グラフの作成に挑戦しました。子どもたちは「データの範囲選択」→「挿入」→「グラフ」という手順や操作をすぐに覚え、グラフの挿入後には色を変更したりタイトルを挿入したりし、自分のオリジナルグラフを仕上げることができました。家庭でも、気温の変化やおこづかいの収支など、身近な素材をグラフ化してみましょう。（北川）


折れ線グラフの完成！

## 頼りにされる存在としての生活

副所長　計野 浩一郎

「うちの子が、お掃除・洗濯、洗い物をしてくれるので、私は楽をさせてもらっています。ほんとに大助かりです。」と、今は社会人となった方の保護者から、このような家庭で頼りにされ、なくてはならない存在になっているという話を聞くことがあります。そのたびに「この子にはできない」と決めつけずに、まずやらせてみて、できなかったら手を取って教え、少しでもできたら褒めることを繰り返し、根気よく取り組んできた成果がこの言葉に凝縮されていると感じます。

実行機能に弱さがある自閉症スペクトラム障害（以下ASD）のある方をここまでに育てていくには、ただ単に「洗濯しなさい」や「部屋の掃除をしなさい」だけでは済まされず、お子さんの特性を理解し段階を踏んで根気強く指導してきたというご苦労のあとがしのばれます。

ここで、実行機能について簡単に説明します。実行機能（遂行機能）とは「自ら目的を設定し、計画を立て、実際の行動を効果的に行う能力」のことです。物事に対して適切な目標を設定し、これを実現するための計画を立てること、状況に合わせて思考・行動を変える柔軟性や抑制力（自己コントロール）、集中力の持続、計画性、整理整頓のスキル、ワーキングメモリー（情報を一時的に脳内に保ちながら、その情報を操作し利用することを含む一連の記憶の過程）といった、幅広い範囲の機能が含まれています。一般的に機能の程度はさまざまですが、ASDの方は、知的障害がなくても7割の方が実行機能に障害をきたしているという指摘もあります。

では、この実行機能を向上させつつ、家事スキルの向上を図るために役立つであろうサポート例を、視覚優位の子どもの洗濯スキルの獲得を例に簡単に記します。物事を学ぶ際の基本的な対応は、ゴールを示し、動機を高め、行動させ、定着指導をするという対応をしていきます。もう少し詳しく説明しますと、まずは、到達目標として洗濯している絵を示す、または、一緒に一連の流れを体験し、何をするのかというイメージを持ってもらいます。次に洗濯に必要なもの（洗剤、洗濯機など）を示します。さらに具体的な手順として、①服を洗濯機に入れる、②コンセントを差し込む、③洗剤を指定された量入れる、④スイッチを入れるなどを記した、または絵にしたものを提示する。個々で発達の差がありますが、視覚的なサポートを提示しつつ、手順を声に出して言いながら進め、習慣づけていくことにより目標が達成されます。真面目な方たちですから、一度身につけたことは続けていけるので、一つひとつ丁寧に指導していくとよいでしょう。一人ひとりの特性に合わせたオーダーメイドの配慮が必要になりますが、配慮が適切であれば、子どもは自ら学びを進め、自律のための力を育んでいきます。

お手伝いができることは、将来の仕事や自立した生活に直接的にも間接的にもつながるものがたくさんあります。お手伝いを通して家族の一員として役割を果たし、頼りにされる存在として生活していけるように、子どもたちの生きやすさを広げていってほしいと願っています。また、私たちが少しでもそのお役に立てる存在でいたいと思っています。

武蔵野東教育センター
〒180-0012
武蔵野市緑町2-1-10
電話 0422-53-8585　FAX 0422-53-8595
Email: education-center@musashino-higashi.org
URL: http://www.musashino-higashi.org

### 平成27年度の療育プログラムのご案内

平成27年度療育プログラムの一次募集を実施しています。受講希望の方は、申込用紙またはホームページのフォームにて平成26年12月16日(火)までにお申し込みください。詳しい資料を希望の方は、電話かホームページでご請求ください。

### 支援者のためのセミナーのご案内

平成26年度第3回セミナーを以下のように開催いたします。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

【第3回セミナー】
平成27年1月29日(木)　10:00～12:00
「子どもの不思議な行動を理解するヒント
—感覚統合の視点から—」
有川真弓（千葉県立保健医療大学准教授）